

【有機栽培水田での生き物調査 報告書】

1. 調査概要

調査名：有機栽培水田での生き物調査(夏)(秋)

実施目的・趣旨：佐伯市は「さいきオーガニックシティ」の実現を目指しており、その取り組みの中で、農政課では有機農業の推進を行っている。

今回は、佐伯市立切畑小学校にお願いし、田んぼに生息する生き物の調査を実施。

生物多様性や農業と自然の関係性について理解を深めるとともに、佐伯市が推進する有機農業の価値や環境保全型農業への意識を高めることを目的とする。

調査対象：佐伯市立切畑小学校 5年生児童(13名)

調査場所：佐伯市弥生大字門田 1337番地等(五十川氏の有機栽培田んぼ)

実施日：○第1回調査:令和7年7月15日(火)8:20～9:10頃

○第2回調査:令和7年9月26日(金)8:20～10:10頃

主催：佐伯市

協力：佐伯市立切畑小学校・五十川庸文氏(栽培者)・テントテントツアーズ

2. 調査方法

調査は、児童が実際に田んぼへ入り、生き物を採集・観察する形式で実施。以下の手順で行った。

1. 調査範囲の安全確認および説明
2. タモ網・バケツ・観察ケース・双眼鏡などを用いた生き物の採集
3. 採集後、全体とグループでの観察・記録
4. 図鑑や資料を使って名前・特徴を確認
5. 発見した生き物についてまとめ

【第一回 7月15日のまとめ】▶[田んぼの生き物 環境チェックシート]にて実施。

＊農山漁村文化協会が提供。

【第二回 9月26日のまとめ】▶[田んぼの生き物調査シート]にて実施。

＊農政課と協議の上作成。

＊発表用に子ども達が記入

3. 調査結果

■ 第1回(7月15日実施)

生き物名	数量の目安	特徴・観察メモ
ミズスマシ	数匹	
ヤゴ(ヤンマ系)	数匹	
ヤゴ(サナエ系)	多数	
メダカ?ハヤ系?	数匹	正確な判断ができず
ガムシ類(幼虫)	多数	
ヤゴ(カワトンボ系)	数匹	
ホウネンエビ	数匹	
カブトエビ	多数	
コガネグモ類	多数	
ハシリグモ類	多数	
コガタノゲンゴロウ(幼虫)	数匹	
コミズムシ	数匹	
アメンボ類	多数	
ヤゴ(アカネ系)	多数	
ユスリカ(幼虫)	多数	
アシナガグモ類	多数	とても多かった
コモリグモ類	少数	
イトミミズ	少数	
アマガエル	少数	小さい幼体
アマガエル (オタマジャクシ)	多数	
その他オタマジャクシ	多数	ツチガエル・ヌマガエルなど
スクミリンゴガイ	多数	

■ 第2回(9月26日実施)

生き物名	数量の目安	特徴・観察メモ
ツチガエル	多数	
ヌマガエル	多数	
オタマジャクシ	少数	水たまりに残っていた個体
ヤゴ(アカネ系)	多数	水たまりに残っていた個体
ヤゴ(サナエ系)	少数	水たまりに残っていた個体
ガムシ	少数	前は幼虫だった・水たまりに残っていた個体
マツモムシ	少数	水たまりに残っていた個体
イナゴ類	多数	
トンボ(アカネ系)	多数	
トンボ(シオカラトンボ)	少数	
トンボ(ハグロトンボ)	1匹	
トンボ(イトトンボ)	少数	
ミズカマキリ	数匹	水中に潜み、じっとしていた
クモ類	多数	稲穂の間に巣を張っていた
コオロギ	多数	
ショウリョウバッタ	多数	
キリギリス	多数	
クビキリギリス	多数	
ササキリ	多数	
ヒシバッタの仲間	多数	
コガネグモ類	多数	
ハシリグモ類	多数	
アシナガグモ類	多数	
ヤスデ	1匹	
ゴミムシの仲間	1匹	
カメムシの仲間	多数	
シジミチョウの仲間	多数	
アメンボ類	少数	水たまりに残っていた個体
スクミリンゴガイ	少数	水たまりに残っていた個体

4. 考察・まとめ

- **生物多様性の確認**: 有機農業の田んぼには、多種多様な生き物が生息していることが確認できた。化学肥料・化学合成農薬・除草剤を使用しない環境下では、水生昆虫や昆虫などの数が多く見られ、生態系が維持されていることが分かった。
一方で、周囲に有機栽培以外の田んぼも密接していることや、水路がコンクリートなどで舗装された圃場であることから、両生類の種類(アカハライモリやトノサマカエルなど)は少なく、水生昆虫も大型のもの(ゲンゴロウ・タガメ・ミズカマキリ)などは確認できなかった。
 - **季節による違い**: 7月と9月で見られる生き物に変化があり、成長や繁殖のサイクルを児童たちが実感することができた。夏の時点で幼体だったカエル・トンボ・ガムシなどが、秋には成体となって再び姿を見せるなど、継続的な観察の大切さを実感した。
 - **児童の学びと関心**: 子どもたちは生き物を直接手に取り、観察する体験を通して、多くの発見と驚きを得た。特にトンボの種類(アカネ系をはじめ、イトトンボやハグロトンボなど)の多さや違い、バッタ類の種類(ショウリョウバッタ・イナゴ・クビキリギズなど)の違いや大きさに関心を示し、地域の自然環境や農業への関心と理解が深まった。
 - **スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)との共生**: 現在の慣行農法では邪魔者とされるジャンボタニシも、有機農法では味方につけることが大切で、雑草の手間を生き物に協力してもらう工夫も大事だと生産者が話されていた。「雑草を除草剤で全て無くせば、ジャンボタニシに稲を食われてしまう。人力で雑草を抜く手間はかかるが、タニシと農家が共生する形で雑草処理をすればタニシは悪者ではなくなる。」
実際に有機農業を実践している方の話を聞くことで、動植物の多様性・食物連鎖の中で農業を行うことの大切さを改めて感じた子どももいたのではないかと感じた。
 - 今後もこのような体験学習を継続することで、児童の地域への関心や自然環境への理解が深まり、次世代の環境保全意識の育成につながると期待される。また、有機農業の田んぼは生き物観察のフィールドとしても非常に価値が高く、地域資源として活用できる可能性がある。
-



ホウネンエビ



スッポン



カブトエビ



ヌマガエルの幼体



カの幼虫



ガムシの幼虫



ハグロトンボ



ヌマガエル



ヤゴ



アメンボ



ヒシバッタ科の仲間



ガ?の幼虫



サナエトンボ科のヤゴ



トンボ科のヤゴ



マツモムシ



アシナガグモの仲間



シオカラトンボ



コバネイナゴ



オニグモの仲間



アシナガグモの仲間



オニグモの仲間



イトトンボの仲間



コオロギ科の仲間



トゲシラホシカメムシ



ササキリの仲間



ショウリョウバッタ



小動物の足跡



アカネトンボの仲間



ゴミムシの仲間？



ヤスデの仲間



クビキリギス



